

平成 26 年度ちばコラボ大賞（千葉県知事賞）

〔 NPOが地縁団体や行政機関等の多様な主体と連携を図り、地域の課題解決に取り組んでいる事例の中から、他のモデルとなる優れた活動として、「ちばコラボ大賞(千葉県知事賞)」に選ばれました。 〕

事業名称	青木繁「海の幸」誕生の家・小谷家住宅を活かした漁村のまちづくり	
申請団体	NPO法人安房文化遺産フォーラム (代表：愛沢伸雄)	事務局、企画、広報、コーディネーター *問合せ：090-6479-3498 awabunka@awa.or.jp
連携団体	青木繁《海の幸》誕生の家と記念碑を保存する会 (会長：嶋田博信)	小谷家住宅(館山市指定文化財)の管理責任者、周辺地区の草刈り等整備等
	NPO法人青木繁「海の幸」会 (理事長：大村智)	全国の画家組織、小谷家住宅の保存基金創出、青木繁「海の幸」オマージュ展(チャリティ)開催
	富崎地区コミュニティ委員会 (会長：勢見勝美)	地域住民への呼びかけ、地域活性化活動の住民参画
	布良崎神社 (責任役員：小谷昭)	青木繁ゆかりの来訪者に氏子らが解説ガイド
	館山市 (市長：金丸謙一)	小谷家住宅の保存活用に関する事業指定の館山ふるさと納税
	館山市教育委員会 (教育長：出山裕之)	館山市指定文化財の保存・活用に関する協議
	館山美術会 (会長：今泉俊一)	青木繁「海の幸」オマージュ展に協賛出展
	NPO全国生涯学習まちづくり協会 (理事長：福留強)	まちづくり人材養成とネットワーク構築
	千葉県歴史教育者協議会 (会長：三橋広夫)	地域教材による歴史・社会科教育の実践および研究協力
	財団法人石橋財団石橋美術館 (理事長：石橋寛)	青木繁『海の幸』所蔵者、画像使用・研究・告知等・保存基金の協力
	青木繁旧居保存会 (会長：荒木康博)	青木繁の故郷久留米市の生家、告知等の協力
くるめつつじ会 (会長：高田誠之助)	久留米市の首都圏在住者の組織、広報協力	
活動概要と成果	<p>館山市富崎地区(布良・相浜)は、房総開拓神話のふるさとであり、マグロ延縄漁発祥の地として栄えた漁村であったが、近年では少子高齢化が進んでいる。最もにぎわった明治期に画家の青木繁が滞在し、重要文化財の『海の幸』を描いた小谷家住宅(館山市指定文化財)は、画壇の聖地と呼ばれている。</p> <p>地域活性化を目ざし、青木繁ゆかりの文化遺産を活かした漁村のまちづくりとして、小谷家住宅の保存に向けた活動が始まった。全国の画家とともに修復基金を募り、行政は本事業を指定して寄付できるように「館山市ふるさと納税」の制度を整備し、目標額3,600万円のうち約半分が集まったことで、平成28年春の公開に向け修復工事が始まった。</p> <p>地域にのこる戦争遺跡や里見氏城跡などとともに、多様な文化遺産を総合的に活用する「館山まるごと博物館」のまちづくり手法が功を奏して、まだ一般公開前であるが、小谷家住宅の訪問者は年間約800名を超えている。隣接する布良崎神社でも氏子のガイドにより参詣者が増え、費金は4倍となった。主婦も伝統的な漁村の家庭料理「おらがごっつお(我が家のご馳走)」のレシピ集を作成したり、来訪者のもてなしたりと活躍している。</p> <p>「ヘリテージまちづくり講座(文化遺産を活かす人材養成)」や多様な連携により、小谷家から発見された明治期資料を中心に調査研究が進められ、青木繁が滞在した当時の漁村文化や歴史が明らかになりつつある。様々な事業での展示紹介を通して、改めて地域の歴史・文化を知った住民は誇りを蘇らせ、小谷家住宅や布良崎神社をはじめ周辺環境の整備や先人の顕彰碑磨きなどに率先して取り組むなど、コミュニティの再生に寄与している。</p>	